

話しに夢中でも周りに注意を払って

(年取ることと日誌から)

C L 教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



2010/02/16 話に夢中の中高年

1. 電車の前の座席に二人の女性と男性一人が話に夢中。内の一人の女性が「今度、行ったら触ってみれば、確かめられるわよ」「でもどっちだかわからないわねー」「だから、葉っぱを触れば…」とどうもどこかに置かれたプラントが人工か自然のものかについての話題らしい。「ほら、着いたよ、降りないと」「あらあら、じゃ、また、あさってねー」と別の女性が電車を降りる。「違うわよー、明日よっ!」。ドアが閉まって、座席の二人は、「だいじょうぶかねーあの人」(お互い様と私は心で)。すぐに三人で話していたことに戻って、「私は絶対、生だと思う」「あの場所に人工植物は置かないだろうな」「そうよ、今はレストランや喫茶店でもレンタルで置いてるそうだし」「そうだよなー」「触ってみれば、絶対よ」と3駅分間その話題は続いた。大したことのないテーマでこれだけ進む会話力と日本は平和だなーと感心した。

2. 中高年の女性二人がそれぞれ自転車に乗って、道を前後に走っている。自転車の前後の籠いっぱいに荷物を乗せて、何かのお稽古か集まりから帰るところの様子。後ろの女性が前の自転車に向かって「〇〇さんが、～って言うてくればいいのかよ、そうすれば良かったのよ」と他のだれかのことを大声で話しかける。前「……」。後ろ「分かる? 私の言ってること…」前から車は来ているし、友人が後から自転車で付いてきているし、道幅は狭く、ウォーキングしている私もいる。たぶん前の人は会話どころではない。周りに気をつけて自転車を漕いでいるので、友人の話は聞こえていないのかもしれないのに…。

2010/02/28

ウォーキングで裏通りの十字路にさしかかると右から車が来るので停まって待つ。パープルカラーのミニカーをパープルカラーのセーターを着た瘠せた中高年の女性が運転していて、歩行者の方が待つて当然とばかりに速度はそのままに横切る。すぐその後に桜色のヘルメットをかぶった若い女性が桜色のスクーターに乗って通り過ぎると思ったら、十字路前でストップして、頭をちょこっと下げて「お先にどうぞ」の合図をする。まつげの長い、目のパッチリとした色白でお雛様のような美人。男性でなくてもなんだかと一っつも得した気分が急いで、彼女の前を渡った。待ったごほうびは大きかった。

2010/03/01

高速道路サービスエリア内で軽快なリズムの懐かしい「コーヒールンバ」の曲が聞こえてくる。音のする方を見ると、コーヒー自販機の前でスーツを着た年配の男性が曲に合わせて体をリズムカルにゆすっている。日本人もグローバルになってきたこと。

2010/03/14

痛みもなく体を動かし、深い呼吸をするこの一瞬。今がすべてなのにどの一瞬も苦痛のない實際を望んで、痛みを増やしている。空は一点の雲も湧かず、どこまでも青い空だけを望んではいけない。黒雲が湧こうが、雷雨が落ち始めようが、強風が吹き巻こうが、青空は空としてそのままにある。

そうありがたいが…。

2010/03/16

踏切り通りの小さな電気店のガラス戸の端に「CDの拾得物預かっています」とご親切に落とし主への張り紙が。一、二歩で通り取り過ぎてしまうお店の小さなメモ、CDを落とした人がこの張り紙を目に留めるといいけど…。

2010/03/17

レイノルズ先生のキリスト解釈小論に「優れた真の専門家は己の限界を知っている」とある。ならば私は限界だらけの超プロと勝手に解釈する理解力にも限界。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)